

平成30年度

佐々町教育委員会自己点検・評価報告書

佐々町教育委員会

〈参考〉 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

はじめに	1
1 趣旨	2
2 点検・評価の対象	2
3 点検・評価の方法	2
4 外部評価委員の意見	3
5 自己点検・評価総括表	6～14
6 平成30年度佐々町教育委員会自己点検・評価シート	15

はじめに

佐々町では、平成24年に第1期の教育振興基本計画を策定し、本町教育の充実に努めてきました。

この間、小・中学校において新学習指導要領が全面実施になり、授業時数の増加や小学校における外国語活動の導入、言語活動の充実・理数教育の充実・道徳教育の充実等の改訂が行われました。その後も、国では「教育の再生」を最重要課題の一つとして掲げ「教育再生実行会議」において、「いじめ対策」「グローバル化への対応」といった具体的な事項から「教育委員会制度の在り方」等の基本的な制度改革まで幅広い検討がなされ、今後も急速な教育改革が予想されます。そのような中で、平成27年3月には新学習指導要領の一部改正が行われ「道徳」が「特別の教科 道徳」になるなどの大きな変化がありました。さらに、平成29年度中には平成32年の完全実施を目指した学習指導要領の改訂がなされました。

また、少子高齢化や国際化・グローバル化等のさらなる進展に加えて、未曾有の大災害の発生や全国的に顕在化した深刻ないじめ・体罰問題、情報モラルの問題など教育を取り巻く環境も大きく変化してきました。

本町でも、平成27年10月に「佐々町まち・ひと・しごと創生総合戦略」が、平成28年度に「第6次佐々町総合計画・後期基本計画」が策定され、教育が「まちづくり」に果たすべき役割も示されました。

これらの動きに対応して、電子黒板の全教室配置等の教育環境の充実や、町内の3つの小・中学校による3校共同研究の充実による教職員の研修機会の確保や、「佐々っ子応援団」活動の推進による学校・家庭・地域の連携の推進等を行い多くの成果を上げてきました。

平成29年度に策定した第2期佐々町教育振興基本計画は、これらの教育を取り巻く環境の急速な変化と第一期計画の成果と課題を踏まえた上で、「21世紀を豊かに生きる地域づくりと人づくり」を目指して本町の教育の基本的な方向性を示し、本町教育の振興に取り組んでいこうとするものです。

こうした計画の実現に向けた取組については、教育委員会が高い使命感をもって責任を果たすとともに、教育行政の体制の整備及び充実に努め、効果的な教育行政を推進するため、平成30年度の教育委員会活動の点検及び評価を実施し、報告書として取りまとめました。

令和元年11月

佐々町教育委員会

教育長 黒川 雅 孝

1 趣旨

佐々町教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、毎年、その権限に属する主要な施策や事務事業の取組状況について、政策効果を把握し、その必要性・効率性等の観点から、自ら点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにしております。

佐々町教育委員会では、このことを踏まえて効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、この点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に提出し、また一般に公表することにより、町民に対する説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進しようとするものです。

2 点検・評価の対象

点検及び評価は、前年度における教育委員会の主要な施策・事業を対象として実施するものとし、本年度は平成30年度に実施いたしました事業について点検及び評価を実施いたしました。

3 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、「第6次佐々町総合計画・後期基本計画」や「佐々町まち・ひと・しごと創生総合戦略」との関連を図りつつ

- ① 文章表現は要点を記載する。
- ② 「活動指標」に具体的な取り組みを記載して取り組みを明確にするとともに、評価を行う。
- ③ 「成果指標」を明確にすることで進捗状況や、その成果を明らかにすることにした。

「活動指標」と「成果指標」を明確に分けることを試みましたが、活動がそのまま成果になる施策もあり、「活動指標」と「成果指標」が類似した設定となる部分も生じました。

また、5年間の計画ではあるものの、今後の急速な教育改革が予想されることから、「活動指標」と「成果指標」については毎年度見直しを行うとともに、内容についても必要に応じて見直しを行い、現状と計画の乖離をなくすようにします。

そこで、昨年度、外部評価委員からの改善の指摘等から、より適切な評価を行うために、以下の見直し・変更を行いました。

- ① 表現が不十分なために、「やっているのに評価されない」活動指標を改善しました。
- ② 成果指標を取組の充実によって現実的に達成可能な指標に改善しました。
- ③ 成果指標が6以下の項目については、「○」「×」での評価とし、項総合評価には入れないことにしました。
- ④ 目標値の「増加」を「現状以上」に変更しました。
- ⑤ 誤記事項や標記の適正化を行いました。

変更箇所については、一覧表中に青または赤で塗りつぶして表示しました。

評価については、下記のように行います。

【活動指標】

- ・4段階評価とする。
- ・教育委員会の自己評価に加えて学校等による自己評価を行う。
- ・評価 3.20 以上を「A」、3.19～2.80 を「B」、2.79～2.40 を「C」、2.39 以下を「D」とする。
なお、複数の機関等による評価の場合はその平均値とする。

【成果指標】

- ・目標値に対する達成度が80%以上を「A」、79～70%を「B」、69～60%を「C」、59%以下を「D」とする。

なお、第2期佐々町教育振興基本計画の改善のため、評価は、平成28年度実績から行います。

また、客観性を確保するための外部評価については、次のとおり外部評価委員会を設け評価を受け、その委員の意見をまとめました。

○佐々町教育委員会外部評価委員名簿

氏名	所属等	任期
川原 紀美雄	元長崎県立大学副学長	平成31年4月1日～平成33年3月31日
弥勒院 孚麿	元公立小学校校長	平成31年4月1日～平成33年3月31日

4 外部評価委員の意見

教育委員会の活動指標及び成果指標に基づき、それぞれの委員の意見を記述しています。

(川原委員)

佐々町は、平成29年4月から第2期佐々町教育振興基本計画を策定、佐々町教育の振興に取り組んでいる。評価には、教育委員会での具体的取組を記載した「活動指標」と、基本計画で策定した項目の教育現場での進捗状況や成果を記載する「成果指標」を設定し、「何を行い」、「その結果がどうだったか」が明確になるよう、取組の工夫がなされている。

その結果、平成30年度の「活動指標」は、大項目では全てA、「成果指標」でも、項目9の「芸術・文化を守り、育てる活動の推進」を除くと全てAとなっている。外部評価委員会としても、教育委員会、学校現場の取組を大いに評価する意見が多数を示したが、いくつかの点で危惧する意見が出た。それは、「成果指標」の根っこである“子どもの理解度”、大項目で言えば、項目1の「一人一人の可能性を伸ばす教育の推進」が進んでいるかである。

この点で議論になったのは、「成果指標」の小項目6、小学生の「佐々町学力調査の到達度」、小項目7「全国学力調査の到達度」はそれぞれAであるのに、小項目14「身近なことを英語で話すことができる中学生の割合」、小項目15「県学力調査(英語)で6割以上理解している中学生の割合」はいずれもDと深刻と言わざるを得ない「成果指標」の状況である。

その結果、目標値は達成しているものの、小項目16「夢や憧れがある児童の割合」、小項

目 17「夢の実現に向けて行動している生徒の割合(中学校)」は、93%から 64%に激減しているのではないかと。これは、各科目の教え方の工夫を超えた、文字どおり一人一人の可能性を伸ばす教育の推進をどう実現するかの今日における教育問題である。第 2 期佐々町教育振興基本計画で策定された目標を、どう現場で共有し、具体的に教えるかが問われているのではないだろうかと問題提起がなされている。中学生が小学生と同様、あるいは、それ以上に夢を持って行動していけるか、ぜひ、来年度へ向けにご検討いただきたいものである。

あと、第 2 期基本計画の大目標は、コミュニティスクールの構築である。これは、成果は不十分と出ているが、3 年間の経過を見る必要があると思われるので、本年度の評価は割愛する。

(弥勒院委員)

1 全体として

活動指標は、目標達成のために取り組むべきことであり、その、ほとんどが「A」の段階にあるということは、佐々町の教育にかかわる活動は、全般的に「なすべきことが、きちんとなされている」状況にあると考えられる。

成果指標についても、9割近くが良好であり、全体的には佐々町の教育の成果は、確実に上がっていると考えられる。

しかし、活動指標に示される取組によって、成果指標は達成される目標値であると考えるときに、活動指標と成果指標の評価は、ほぼ一致すべきであるが、その相関が不十分で、活動指標が良好であるにもかかわらず、成果指標が低調な項目がある。

項目によっては、活動指標が包括的になってしまうことは理解するが、実施機関等では活動指標をより具体化し、成果指標を達成するための手立てを検討する必要があると思われる。

次に、学校教育と社会教育に大別して、成果指標から見える佐々町の教育の状況を概観する。

①学校教育の充実

学校教育において、子どもたちにつけるべき力は、「生きる力」であるが、そのためには、「学力」「豊かな心」「体力」を育成する必要がある。

「学力」の指標として「全国学力調査の到達度(NO7)」を見ると、全国平均を上回る結果が出ており良好ではあるが、良好な状態を維持するための努力を続けることを望みたい。

「豊かな心」の指標として「周囲や相手のことを思いやって生活できる児童生徒の割合(NO24)」を見ると、9割近くが達成できており、良好である。しかし、達成度 100%をめざして日々の指導を重ねていただきたい。また、「いじめの解消率(NO26)」は 100%と素晴らしい評価であるが、あくまで学校が把握した「いじめ」の解消率であり、「把握できていないこともある」との危機意識を持った対応の継続を願いたい。

「体力」の指標として「全国体力・運動能力調査の到達度(NO33)」を見ると、ほぼ全国並の結果が出ているが、ぜひ全国を上回る結果となるように改善を望みたい

②社会教育の推進

社会教育は広範囲にわたるが、教育委員会がなすべきことを、町民が生きがいを持って学べる機会の充実ととらえ、「社会教育の推進」「生涯スポーツの推進」「芸術・文化を守り育てる」に大別して概観する。

「社会教育の推進」の指標として「各種講座の参加者数(NO61)」を見ると、達成度 110%と非常に良好である。また、「公民館活動参加者数(NO62)」の達成度も良好であり、社会教育の推進は十分に行われていると考える。しかし、参加者の固定化等の問題点も聞いており、より魅力的で、町民に広く開かれた講座の開設をお願いしたい。

「生涯スポーツの推進」の指標として、「スポーツイベントへの参加者数(NO69)」は高い達成度であるが、スポーツ少年団、体育協会への登録者数が徐々にではあるが、減少傾向にあるようで気になる。趣向の多様化等の背景もあると思うが、増加への努力をお願いしたい。

「芸術・文化を守り育てる」の指標として、「文化にかかわる発表会への参加者数(NO79)」を見ると、目標値は到達しなかったが、達成度は9割以上と良好であった。ぜひ、目標値を達成してほしい。

2 活動指標について

ほとんどがAと、佐々町の教育は、良好な状態にあると考えられるが、Bの項目が2つ、Dの項目が1つある。

いずれも社会教育にかかわる項目であるが、活動指標が達成できているのに、成果指標がAにならないのは、成果指標が低いということになる。検討をお願いしたい。

また、Dの項目については、成果指標を意識した活動や取組の設定を考える必要がある。

3 成果指標について

AとBの合算が 89.0%と良好であるが、Dが 6.9%である。さらなる改善が必要である。特に、中学校の英語教育、読書指導については、具体的な対策を実施していく必要がある。

なお、成果指標が達成できていない項目については、その理由と今後の対応について所見欄に記載するように、昨年度指摘したが、その対応は不十分である。教育委員会は、未達成の理由について聴いて改善を指導する必要がある。

4 「佐々町教育委員会自己点検・評価」の見直しについて

平成 28 年度に指摘した事柄に対する改善であり、平成 30 年度から実施されたが、より佐々町の教育について実態に合った評価がなされるようになった。

特に、目標値が小さく、少しの違いで達成度が、300%等と大きく変動する項目を「項総合評価」に入れることは、その項目の評価が「項総合評価」を大きく左右することになり、不適切な状態であっただけに改善の効果は大きいと考える。

今後も、継続性及び信憑性を担保しながら、より実効性の高い自己点検・評価としていくことが必要であると考えます。

平成30年度 佐々町教育委員会自己点検・評価総括表

平成29年4月より第2期佐々町教育振興基本計画(Plan)により、本町の教育の基本的な方向性を示し、本町教育の振興に取り組むこととしましたが、評価については平成28年度実績から行い、その改善に資することとしました。

評価には、具体的な取り組みを記載した「活動指標」と進捗状況や成果を記載する「成果指標」を設定し、「何を行い(Do)」、「その結果がどうだったか(Check)」が明確になるようにしました。

また、教育委員会や評価委員会において評価結果について検討することで改善(Action)につなげることとしました。なお、「活動指標」及び「成果指標」は下記のように評価しました。

なお、昨年度外部評価委員からの改善の指摘等から、より適切な評価を行うために、以下の見直し・変更を行いました。

- ①表現が不十分のために「やっているのに評価されない」活動指標を改善しました。
- ②成果指標を取組の充実によって現実的に達成可能な指標に改善しました。
- ③成果指標が6以下の項目については、「○」「×」での評価とし項総合評価には入れないことにしました。
- ④目標値の「増加」を「現状以上」に変更しました。
- ⑤誤記事項や標記の適正化を行いました。

変更箇所については、一覧表中に青または赤で塗りつぶして表示しました。

○活動指標

- ・4段階評価とする。
- ・評価3. 20以上を「A」、3. 19～2. 80を「B」、2. 79～2. 40を「C」、2. 39以下を「D」とする。なお、複数の機関等による評価の場合はその平均値とする。

○成果指標

- ・目標値に対する達成度が80%以上を「A」、79～70%を「B」、69～60%を「C」、59%以下を「D」とする。

【総括表】

(活動指標)

	教育委員会	学校等	割合	A+Bの割合
A	96	116	98.6%	99.5%
B	0	2	0.9%	
C	0	0	0.0%	
D	0	1	0.5%	
計	96	119	100.0%	

(成果指標)

	数	割合	A+Bの割合
A	63	86.3%	89.0%
B	2	2.7%	
C	3	4.1%	
D	5	6.9%	
計	73	100.0%	

大項目	活動指標	成果指標
1 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	A	A
2 豊かな人間性、社会性を育む教育の推進	A	A
3 健やかな体を育成する教育の推進	A	A
4 信頼される学校づくりの推進	A	A
5 教育環境整備の推進	A	A
6 学校・家庭・地域の連携の推進	A	A
7 生涯学習・社会教育の推進	A	A
8 生涯スポーツの推進	A	A
9 芸術・文化を守り、育てる活動の推進	A	B
10 新たな地域文化創造の推進	A	A

平成30年度 教育委員会自己点検・評価

大項目	中項目	活動指標							成果指標									
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査	
1 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	① 基礎的・基本的な学習の充実	1	学習指導要領の適切な実施への指導	4.0	A	学習指導要領の適切な実施	学校等	4.0	A	1	3校研における公開授業の開催数	3回	3回以上	3.3	111.1%	○	実態調査	
		2	教材・教員の充実のための支援	4.0	A	教材・教員の充実	学校等	4.0	A	2	「ICT機器を使った授業の内容はよく分かる」と答えた児童生徒の割合	69%	90%以上	93.3	103.7%	A	学校運営調査	
		3	授業改善の指導・支援	4.0	A	授業改善の推進	学校等	4.0	A	3	自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合	58%	70%	61.8	88.3%	A	全国学力調査	
		4	ICT教育推進のための環境整備	4.0	A	ICT教育の推進	学校等	4.0	A									
		5	学校訪問による指導	4.0	A	経年経過研修の効果的な実施	学校等	4.0	A									
		6	3校共同研究の支援・指導	4.0	A	3校共同研究の効果的な実施	学校等	4.0	A									
		7	校内研修の支援・指導	4.0	A	校内研修の効果的な実施	学校等	4.0	A									
		8	職員研修の推進・支援	4.0	A	職員研修の効果的な実施	学校等	4.0	A									
		9	加配教員の活用のための支援	4.0	A	加配教員の効果的な活用	学校等	4.0	A									
		10	学力向上支援員の配置	4.0	A	学力向上支援員の効果的な活用	学校等	4.0	A									
		11	サポート・ティーチャー配置への支援	4.0	A	サポート・ティーチャーの効果的な活用	学校等	4.0	A									
		12	ALT配置への支援	4.0	A	ALTの効果的な活用	学校等	4.0	A									
		13	学力向上のための指導・支援	4.0	A	学力向上のための取組の充実	学校等	4.0	A									
		14				家庭学習の習慣化の指導	学校等	4.0	A									
		15				授業規律の徹底	学校等	4.0	A									
		16				校内研究授業の効果的な実施	学校等	4.0	A									
	② 知識・技能の習得と活用する力を育む取組の推進	17	横断的・総合的な学習への支援	4.0	A	横断的・総合的な学習の効果的な実施	学校等	4.0	A	4	横断的・総合的な学習の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	
		18	体験活動実施への支援	4.0	A	体験活動の効果的な実施	学校等	4.0	A	5	ボランティア活動など社会奉仕に関わる体験活動の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	学校運営調査	
		19	佐々町学力調査実施・活用への支援	4.0	A	佐々町学力調査結果向上への取組	学校等	4.0	A	6	佐々町学力調査の到達度	1.00	1.00以上	0.98	98.0%	A	町学力調査	
		20	全国学力調査実施・活用への支援	4.0	A	全国学力調査結果向上への取組	学校等	4.0	A	7	全国学力調査の到達度	0.99	1.00以上	1.00	100.3%	A	全国学力調査	
③ 学校間の連携の推進	21	3校共同研究の支援・指導	4.0	A	3校共同研究の効果的な実施	学校等	4.0	A	8	3校共同研究による相互交流授業・研究の実施回数	3回	3回以上	3.3	111.1%	○	実態調査		
	22	「佐々子ゆめプラン」啓発の支援	4.0	A	「佐々子ゆめプラン」の啓発	学校等	4.0	A	9	中学校体験入学の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査		
	23				中学校体験入学の効果的な実施	学校等	4.0	A	10	両小学校交流の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査		
	24				両小学校交流機会の設定	学校等	4.0	A										
④ 情報教育の推進	25	ICT支援員の配置	4.0	A	ICT支援員の有効な活用	学校等	4.0	A	11	ICTを活用して学習に取り組むことができる児童生徒の割合	68%	100%	68.0	68.0%	C	学校運営調査		
	26	ICT教育推進のための環境整備	4.0	A	電子黒板の効果的な活用	学校等	4.0	A	12	授業中にICTを活用して授業ができる教員の割合	データなし	100%	100.0	100.0%	A	実態調査		
	27				タブレットPCの効果的な活用	学校等	4.0	A										
	28				情報教育の適切な実施(中学校)	学校等	4.0	A										
	29				情報モラル教育の適切な実施	学校等	4.0	A										

大項目	中項目	活動指標						成果指標										
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査	
1 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	⑤ 外国語教育・国際理解教育の推進	30	ALT配置への支援	4.0	A	ALTの効果的な活用	学校等	4.0	A	13	英語による簡単なコミュニケーション活動ができる小学生の割合	94%	95%	90.0	94.7%	A	学校運営調査	
		31	外国語活動の適切な実施への支援(小学校)	4.0	A	外国語活動の適切な実施(小学校)	学校等	4.0	A	14	身近なことを英語で話すことができる中学生の割合	51%	70%	36.0	51.4%	D	学校運営調査	
		32	英語力向上のための取組の支援(中学校)	4.0	A	英語力向上のための取組の推進(中学校)	学校等	4.0	A	15	県学力調査(英語)で6割以上理解している中学生の割合	43%	70%	20.0	28.6%	D	実態調査	
	⑥ キャリア教育の推進	33	キャリア教育推進のための支援	4.0	A	地域人材等を活用した「生き方」を学ぶ機会の提供	学校等	4.0	A	16	夢や憧れがある児童の割合(小学校)	93%	100%	92.5	92.5%	A	学校運営調査	
		34				勤労・生産的な学習の実施	学校等	4.0	A	17	夢の実現に向けて行動している生徒の割合(中学校)	64%	100%	76.4	76.4%	B	学校運営調査	
		35				職業に関する学習の実施	学校等	4.0	A									
		36				職場見学を含む学習の実施(小学校)	学校等	4.0	A									
		37				職場体験の実施(中学校)	学校等	4.0	A									
	⑦ 幼児教育の推進	38	幼児教育の適切な実施への支援・指導	4.0	A	幼児教育の適切な実施	幼稚園			18	小学校体験入学の実施率	100%	100%を維持					実態調査
		39	就学時健康診断の適切な実施	4.0	A	小学校への適切な引き継ぎの実施	幼稚園											
		40	幼稚園就園奨励費事務の適切な実施	4.0	A	小学校体験入学の効果的な実施	学校等											
	⑧ 特別支援教育の推進	41	「合理的配慮」の提供	4.0	A	「合理的配慮」の提供	学校等	4.0	A	19	個別的教育支援計画の作成率	70%	100%	100.0	100.0%	A	学校運営調査	
		42	特別支援教育支援員の配置	4.0	A	特別支援教育支援員の効果的な活用	学校等	4.0	A	20	特別支援教育を理解している教員の割合	データなし	100%	100.0	100.0%	A	実態調査	
		43	就学指導委員会の適切な開催	4.0	A	校内の相談・指導体制の確立	学校等	4.0	A									
		44	関係機関との連携	4.0	A	関係機関との連携	学校等	4.0	A									
		45	特別支援教育に関わる担当者研修会の開催	4.0	A	特別支援教育に関わる研修会の開催	学校等	4.0	A									
		46	就学時健康診断の適切な実施	4.0	A	小学校への適切な引き継ぎの実施	学校等	4.0	A									
		47				子どもの情報の共有	学校等	4.0	A									
48					個別的教育支援計画の作成	学校等	4.0	A										

所見	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 88.3%	総合評価: A
所見(幼稚園)							
所見(佐々小)		一人ひとりの可能性を伸ばす教育の推進については、教育支援員及びICT支援員等を適切に活用し、校内研究による授業改善を軸に確実に成果が上がっている。また、ICTの効果的な活用により、県学力や全国学力・学習状況調査、年度末の町学力調査の結果においても、年々確実に向上し、ほとんどの学年で全国平均を上回っている。今後も今の指導方針を継続し、さらに学力向上を図り、児童の可能性を伸ばす教育の実現を目指す。また、通級指導教室や特別支援学級が、特別支援教育の指導体制を強固なものにし、情緒的に不安定だった児童の多くが、落ち着いた学校生活を送っており、学校全体の雰囲気も大きく変わった。特別に支援が必要な児童もそうでない児童も学習に挑む姿に安定感があり、共に輝く佐々小の子どもの育成が期待できる。					
所見(口石小)		これまでも継続して取り組んできた算数科授業の質の向上と過去の調査問題活用を、校内研修としての取組の柱としている。今年度も全国や県の学力調査の結果から本校児童の高い学力が証明され、実践の成果と裏付けることができた。一方で、課題となっていた教科学習への意欲向上と自己肯定感の高まりを目指し、算数科授業では、予習と導入段階での活動との連動や、学びに必然性を持たせた授業展開を重視し、そこから言語活動を効果的に設定していく授業づくりに着手している。主体的・対話的で深い学びのある授業実践を推進していく。					
所見(佐々中)		通級指導教室の開設以降、特別支援教育の充実がなされ改善が見られた。しかし、通常学級にもまだ支援が必要な生徒がおり、今後も継続的な対応が必要である。また、各学力調査においては平均を下回っており、授業改善が必須である。県からの派遣事業等を活用し、授業改善を行い、学力向上に努めたい。					
所見(委員会)		小学校外国語活動に関わる授業時数増に対応するために、土曜授業の実施及び夏期休暇の短縮について検討した。児童・生徒が学びやすい教育環境の充実整備に努め、空調施設の整備を行った。また、引き続き、町独自の学力調査や児童生徒理解支援業務など学力向上に資するための支援を行った。さらに、英語専科教諭(小学校)、ALT・学力向上支援員等の配置のほか、電子黒板やタブレットを使ったICT教育についても、引き続き推進した。そのよう中で概ね目標達成はできているものの、「ICTを活用して学習に取り組むことができる児童生徒の割合」及び中学校英語に関わる成果指標が伸び悩んでいる。改善を指導していきたい。特別支援教育については良好な状態にあるが、特別支援教育にかかわる支援員のスキルアップのための研修会を検討したい。					

大項目	中項目	活動指標						成果指標										
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査	
2 豊かな 人間性、 社会性 を育む 教育の 推進	① ふるさと教育の推進	49	佐々町郷土資料の活用推進	4.0	A	佐々町を学習材とした授業の実施(小3・4年の社会)	学校等	4.0	A	21	我が国の伝統や文化について理解と愛情のある児童生徒の割合	77%	100%	67.5	67.5%	C	学校運営調査	
						身近な地域の調査の実施(中1年の社会)	学校等	4.0	A	22	「佐々町博士」の活用度	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	
		50	「佐々町博士」の改訂・配布	4.0	A	「佐々町博士」の有効な活用	学校等	4.0	A									
			51				青少年劇場への参加と成果の活用	学校等	4.0	A								
	② 道徳教育の推進	52	道徳に関する研修会への参加促進	4.0	A	道徳に関する研修会への参加	学校等	4.0	A	23	「長崎っ子の心を見つめる教育週間」における道徳授業の公開率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	
		53	道徳教科書採択への適切な対応	4.0	A	道徳教科書採択への適切な対応	学校等	4.0	A	24	周囲や相手のことを思いやって生活できている児童生徒の割合	90%	100%	87.4	87.4%	A	学校運営調査	
		54	佐々っ子3ヶ条の啓発	4.0	A	佐々っ子3ヶ条の啓発	学校等	4.0	A									
		55				道徳の授業の効果的な実施	学校等	4.0	A									
		56				「長崎っ子の心を見つめる教育週間」における道徳授業の公開	学校等	4.0	A									
		57				豊かな情操、規範意識、道徳心を育むための日常的な取組	学校等	4.0	A									
	③ 人権教育の推進	58	人権教育推進のための支援・指導	4.0	A	人権学習の実施(教科等を含む)	学校等	4.0	A	25	周囲や相手のことを思いやって生活できている児童生徒の割合	90%	100%	87.2	87.2%	A	学校運営調査	
		59	いじめ防止基本方針に従った指導・対応	4.0	A	人権集会の実施	学校等	4.0	A	26	「いじめ」の解消率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	
		60				「人権作文」への応募(中学校)	学校等	4.0	A									
		61				いじめ防止基本方針に従った指導・対応	学校等	4.0	A									
			62			いじめへの適切な対応と早期の解消	学校等	4.0	A									
	④ 平和教育の推進	63	平和教育推進のための支援・指導	4.0	A	平和学習の実施(教科等を含む)	学校等	4.0	A	27	戦争の悲惨さや平和の尊さについて理解を深めている児童生徒の割合	99%	100%	98.5	98.5%	A	学校運営調査	
		64				平和集会(8月9日)の実施	学校等	4.0	A									
	⑤ 環境教育の推進	65	環境教育推進のための支援・指導	4.0	A	環境学習の実施(教科等を含む)	学校等	4.0	A	28	環境問題に関心があり、何らかの取組を実践している児童生徒の割合	65%	80%	94.8	118.5%	A	学校運営調査	
		66				自然とふれあう活動の実施	学校等	4.0	A									
	⑥ 体験活動の推進	67	体験活動推進のための支援・指導	4.0	A	体験活動の充実	学校等	4.0	A	29	佐々町の地域資源を活用した体験活動の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	
		68				町の地域資源を活用した体験活動の推進	学校等	4.0	A									
		69				特別活動の充実	学校等	4.0	A									
	⑦ 読書活動の推進	70	読書活動推進のための支援・指導	4.0	A	「朝読書」の実施	学校等	3.7	A	30	学校図書館の児童生徒一人当たりの貸出冊数	小:75冊	小:80冊	86.45	108.1%	A	学校運営調査	
		71				「読み聞かせ」の実施(小学校)	学校等	4.0	A			中:14冊	中:20冊	6	30.0%	D	学校運営調査	
		72				読書活動推進のための取組	学校等	3.7	A									
⑧ 伝統文化にふれる機会の充実	73	青少年劇場の開催	4.0	A	青少年劇場への参加と成果の活用	学校等	4.0	A	31	舞台芸術を生で鑑賞したことがある生徒の割合	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	学校運営調査		
	74	伝統文化にふれる機会の充実のための支援・指導	4.0	A	文化芸術の鑑賞機会の充実(教科等を含む)	学校等	3.7	A	32	文化や芸術に関わる体験活動の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査		
	75				文化芸術に関わる体験活動の実施(教科等を含む)	学校等	3.7	A										

評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
	達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 92.1%	総合評価: A
2 豊かな人間性、社会性を育む教育の推進	所見	学級経営を軸とした人間関係の構築と活性化を図るために、QUテストの結果を詳細に分析し、活かしている。さらに、確固たる実践力を高めるために、教育課程において体験活動の充実を図っている。道徳教育、人権教育、平和教育等、教室で学習した内容が、日常生活等において実践につながるよう、特別活動等を中心とした体験活動の充実も図っている。また、図書館教育については、児童会を中心とした読書活動に取り組もうとする意欲の高まりが学校全体にある。読書活動を推進することで、情操教育が高まり、読書冊数の増減のみに視点を置くことなく、人間関係の構築ということを狙いとした活動も展開している。				
	所見(口石小)	特別の教科 道徳の完全実施に伴い、改訂の内容や基本的な授業モデル、評価の在り方について研修を進めた。研修の機会を設定したことで、より確実な道徳授業の実施につながっている。思いやりのある生活や環境問題への取組では、数値が向上している。強化した取組はないものの、ねらいを明確にし、児童の言動や活動を意図的に仕組むなど、丁寧な指導や支援の成果であろうと考えている。				
	所見(佐々中)	長崎っ子の心を見つめる教育週間の取組、道徳の授業、平和集会、人権集会等で生徒の規範意識や道徳心を高める取組を実施した。いじめ問題については、いじめ防止基本方針に沿って、迅速かつ適切な対応に努めた。常にアンテナを高く張り、報告・連絡・相談の徹底を図ることで、いじめを絶対に出さない姿勢をとる。図書の出冊数については、減少傾向にあり、読書活動推進のための取組を図書司書を中心に改善していく。				
	所見(委員会)	ふるさと教育の推進をめざし、小学校低学年の佐々町調べに活用できるように絵本の「モコちゃんの佐々川ぼうけん」を各小学校に30冊ずつ配布した。本年度も舞台芸術に親しむ機会を設けることができた。いじめについては、「いじめ防止基本方針」に従って、各学校から毎月報告をさせるとともに必要に応じて対応を指導し解消率100%を維持できた。「我が国の伝統や文化についての理解と愛情のある児童生徒数の割合」が70%前後にとどまっている。児童生徒へのアンケートによる調査結果であるが、評価の視点が漠然としていることにも一因があると思われる。中学校の「学校図書館の一人当たりの貸出冊数については、指導が必要である。				

大項目	中項目	活動指標						成果指標									
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
3 健やかな体を育成する教育の推進	① 体力向上の取組の推進	76	体力向上に対する支援・指導	4.0	A	体育の授業の充実	学校等	4.0	A	33	全国体力・運動能力調査の到達度(全国比)	1.010	1.000	0.998	99.8%	A	体力運動能力調査
		77	運動に親しめる環境の整備	4.0	A	運動の機会の充実(部活動を含む)	学校等	4.0	A	34	体育の授業で運動ができるようになった児童生徒の割合	84%	85%以上	88.0	103.6%	A	体力運動能力調査
		78				体育的行事の充実	学校等	4.0	A	35	体育の授業が楽しいという児童生徒の割合	89%	90%以上	89.8	99.8%	A	体力運動能力調査
		79				スポーツテスト結果の有効活用	学校等	3.7	A								
	② 望ましい生活習慣を身につける取組の推進	80	「佐々っ子ゆめプラン」啓発の支援	4.0	A	「佐々っ子ゆめプラン」の啓発・検証	学校等	4.0	A	36	就寝時刻(中学生12時より早い時刻、小学生10時より早い時刻)	小: 72%	80%	74.0	92.5%	A	学校運営調査
		81	佐々っ子応援団活動の推進	4.0	A	「あいさつ」指導の徹底	学校等	4.0	A			中: 77%		87.0	108.8%	A	学校運営調査
		82				望ましい生活習慣を身につけさせるための日常的な取組	学校等	4.0	A	37	起床時刻(6時30分より早い時刻)	75%	80%	71.4	89.2%	A	学校運営調査
	③ 食育の推進	83	「佐々っ子ゆめプラン」啓発の支援	4.0	A	「佐々っ子ゆめプラン」の啓発・検証	学校等	4.0	A	38	「食」に関する栄養教諭による指導回数	データなし	50回	104.0	208.0%	A	実態調査
		84	給食の充実に関する支援	4.0	A	栄養教諭を活用した食育指導の実施	学校等	4.0	A	39	朝ご飯の摂取率	99%	100%	98.2	98.2%	A	学校運営調査
		85				給食指導の充実	学校等	4.0	A								
		86				個別的な健康相談の実施	学校等	3.7	A								

評価	項総合評価(活動指標)		項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
	達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 3.9	総合評価: A	評価平均: 112.5%	総合評価: A
3 健やかな体を育成する教育の推進	所見	体力向上の課題の改善を図るために、昨年度より日課の中に体力向上の時間を設定した。運営を体育委員会が行うことで、主体的な体力向上を目指すことができ、結果的に体力・運動能力調査で完全が見られた。さらに、体育部が2人体制となっており、これまで以上に体育の時間の充実を図るための手立てが、学年に応じて講じられている。体育の学習内容が学校行事や体験活動とつながるように意図的に設定し、年間を通した体力向上に努めている。また、生活指導及び保健指導については、これまでの流れプラス、メディア教育を取り入れ、児童及び保護者にも指導方針を浸透させている。現在の教育活動の継続を基本とし、さらに工夫改善を図る。				
	所見(口石小)	体育学習への関心を持たせ、異議を感じさせることはできていないものの、平均値には表れない二極化が確実に進んでいる。運動の絶対量が不足する現状において、効果的に体力向上を図る手立てが必要である。日々の生活指導及び道徳教育を中心に、本校の課題であるあいさつの励行を推進している。顕著な変化はまだ見られないものの、地域の方の声として少しずつ改善の手応えを感じている。				
	所見(佐々中)	全国体力・運動能力調査の到達度については、県平均を下回る項目が42%となり、80%に達することができなかった。特に、柔軟性は改善の傾向はあるものの平均を下回った。授業でのジャックナイフストレッチの実施等、継続的に指導していく。食育指導に関しては、給食週間の実施や、給食調理員との会食を通しての食育授業など、今後も積極的に取り組む。また、食育だよりなどの計画的発行を行い、保護者や地域への啓発活動も併せて実施する。				
	所見(委員会)	本町児童・生徒は、全般的には良好な体力、生活習慣、適切な食生活を送っていることが伺える。しかし、体力における柔軟性や個別的な生活習慣には課題もあり、その解消に向けたきめ細やかな指導の充実を図っていきたい。				

大項目	中項目	活動指標						成果指標									
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
4 信頼される学校づくりの推進	① 生徒指導・相談体制の充実	87	生徒指導主事・生活指導主任研修会の開催	4.0	A	生活規律の適切な指導	学校等	4.0	A	40	「いじめ」の解消率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		88	関係機関との連携	4.0	A	関係機関との連携	学校等	4.0	A	41	不登校児童生徒の割合	1.06	県平均以下(1.18)	0.9	134.1%	A	実態調査
		89	佐々子3ヶ条の啓発の支援	4.0	A	佐々子3ヶ条の繰り返しの指導	学校等	4.0	A	42	学校のきまりを守っている児童生徒の割合	91.4%	95%	89.2	93.9%	A	全国学力調査
		90	問題行動対応への適切な指導	4.0	A	問題行動への適切な対応	学校等	4.0	A	43	自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	71.0%	80%	81.3	101.6%	A	全国学力調査
		91	「いじめ防止基本方針」に従った指導・対応	4.0	A	「いじめ防止基本方針」に従った指導・対応	学校等	4.0	A	44	スクールカウンセラーの配置(県事業)	各校1人	現状維持	1.0	100.0%	○	実態調査
		92	不登校対策委員会の開催	4.0	A	不登校対策の充実	学校等	4.0	A	45	スクールソーシャルワーカーの配置(県事業)	町内1人	現状維持	1.0	100.0%	○	実態調査
	② 学校・家庭・地域の連携を図る取組の推進	93	SC、SSW、心の相談員の配置	4.0	A	相談活動の充実	学校等	4.0	A	46	心の相談員の配置	各校に配置	現状維持	1.3	100.0%	○	実態調査
		94	地域人材活用への支援	4.0	A	地域人材の活用	学校等	4.0	A	47	学校だより等による発信	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		95	コミュニティ・スクール佐々モデルの充実	4.0	A	コミュニティ・スクール佐々モデルの充実	学校等	4.0	A	48	学校評価の公表	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		96				学校だより、学級だよりの発行	学校等	4.0	A	49	学校支援ボランティアの実人数	96人	100人	94.0	94.0%	A	学校運営調査
	③ 教職員の指導力の向上	97				学校評価結果の公表と適切な活用	学校等	4.0	A								
		98				学校運営協議会の充実	学校等	4.0	A								
		99	研修会受講の支援・指導	4.0	A	研修会への積極的な参加	学校等	4.0	A	50	町教委主催の各主任研修会の開催数	12回	12回以上	12.0	100.0%	A	実態調査
100	各主任研修会の開催	4.0	A	研修内容の適切な校内伝達や活用	学校等	4.0	A	51	3校共同研究による相互交流授業・研究の実施回数	3回	3回以上	3.3	111.1%	○	実態調査		
101	3校共同研究の支援・指導	4.0	A	3校共同研究の充実	学校等	4.0	A										

大項目	中項目	教育委員会項総合評価(活動指標)				学校等項総合評価(活動指標)				項総合評価(成果指標)			
		達成度平均	総合評価	達成度平均	総合評価	達成度平均	総合評価	達成度平均	総合評価				
4 信頼される学校づくりの推進	評価	4.0	A	4.0	A	103.0%	A						
	所見	<p>学校評価委員会が学校運営協議会となり、学校情報の公開を進め、意見等も取り入れながら学校運営に活用している。特に、学校運営協議会においては、学校運営に関わる職員組織や学級担任以外の用務、主な教育活動の計画等、可能な限り情報提供をしている。また、職員一人ひとりと顔が見えるつながりを構築するよう、様々な場面を意図的に設定している。その他に、学校教育の必要性と佐々子3ヶ条の各組織や団体の活動が合致する活動を取り入れながら、相互に信頼関係を高めている。</p>											
	所見(口石小)	<p>いじめにつながる問題行動については、解消に至るまでの確実な指導を心がけた。根が深く、解消までに時間がかかる事案もあったが、同学年職員の連携、また関係職員との連携を図り、複数での対応を徹底することで、担任一人が抱え込むことがないよう努めた。特別な配慮を要する児童については、特別支援教育COを中心として、担任やSC、SSW、心の相談員が連携しての組織的対応を進めた。</p>											
	所見(佐々中)	<p>信頼される学校づくりを推進するために、教職員の資質・能力の向上をはじめ、問題行動に対する早期発見・即対応に努めた。また、学校だよりや学級だより、食育、保健、進路だよりなどを定期的に発行した。教育相談の充実や不登校対策委員会の定期的な実施及び関係機関との連携により、不登校生徒の改善・減少につながった。3校での共同研究の実施により、連携が図られ相互の交流が密となった。</p>											
所見(委員会)	<p>町内3校をコミュニティスクール化して1年半が経過したが、無理なく安定的に運営がなされ、所期の目標も達成できている。カウンセラーやスクールソーシャルワーカー、心の教室相談員の配置により、子どもや保護者を支援した。警察、児童相談所、福祉関係者による要保護児童対策地域協議会を年間2回開催するとともに必要に応じて個別の事案対応のためのケース会議を開催した。引き続き、心理検査(QUI検査及びi-check)を行うことで、学校生活、満足度等を把握し、不登校対策やいじめの予防に努めた。教職員の指導力向上のため、県や町教委主催による研修や、3校共同研究の推進により、教職員の研修が推進できた。</p>												

大項目	中項目	活動指標						成果指標									
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
5 教育環境整備の推進	① 子どもの安全確保対策の推進	102	危機管理マニュアルに従った指導・対応	4.0	A	危機管理マニュアルに従った指導・対応	学校等	4.0	A	52	通学路安全点検の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		103	防犯・防災・交通安全教育の支援・指導	4.0	A	防犯・防災・交通安全教育の実施	学校等	4.0	A	53	避難訓練の実施回数	小学校:3回 中学校:2回	現状を維持	小学校:3回 中学校:2回	100.0%	○	実態調査
		104	通学路安全推進会議の開催	4.0	A	通学路安全点検の実施	学校等	4.0	A	54	佐々子応援団あいさつ運動参加者数	50人程度	70人	58	82.9%	A	後期計画
		105				避難訓練の実施	学校等	4.0	A	55	「危機管理マニュアル」の作成率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査

大項目	中項目	活動指標				成果指標			
		評価	教育委員会項総合評価(活動指標)	学校等項総合評価(活動指標)	項総合評価(成果指標)				
5 教育環境整備の推進	所見	達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 94.3%	総合評価: A		
	所見(佐々小)	交通事故や生活事故等の発生時には、管理職を中心に危機管理マニュアルに沿って適切に対応することを訓練している。教育活動において、児童の生命や安全を第一とした取組を、管理職が随時確認している。また、事故発生時を想定し教職員の動きを指導しており、万全の体制で教育活動に取り組んでいる。さらに、今年度は年度当初に養護教諭を中心にアレルギー対応の研修を全員で行い、アナフィラキシーに備えて、校内での職員の動きまでを確認し合った。							
	所見(口石小)	避難訓練を単なる訓練とせず、日々の生活や行動と関連付けて指導をしてきた。行事等での体育館への速やかな移動や静かに待つ態度は、安全管理の上でも児童に身に付けさせておくべき力である。全職員の共通実践事項として指導を重ねていく。作成した緊急時の集団下校マニュアルを保護者にも周知した。自然災害や不審者事案、特異事案などに対応するもので、緊急時においてもミスがないよう活用を図っていく。							
	所見(佐々中)	通学路の安全点検及び避難訓練の実施により、生徒の安全意識の向上を図った。また、自転車通学生には、自転車点検や安全講習会を実施し、正しい乗り方や交通マナーについて指導を継続している。							
	所見(委員会)	「佐々町登下校安全プラン」を策定し、小学校全保護者への危険箇所アンケートをもと安全点検を行い、「通学路安全マップ」を作成し教育委員会及び各学校のHPに掲載した。また、各学校の危機管理マニュアルの充実に資するために、「学校の危機管理マニュアルの指針」を策定した。町内の全ての学校に防犯カメラを設置した。							

大項目	中項目	活動指標						成果指標										
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査	
6 学校・家庭・地域の連携の推進	① 地域教育力(放課後対策等)の充実	106	放課後子ども教室の開催	4.0	A					56	放課後子ども教室参加児童数	60人	150人	833	555.3%	A	後期計画	
		107	土曜学習の開催	4.0	A					57	土曜学習参加児童数	データなし	450人	627	139.3%	A	実態調査	
		108	佐々子応援団活性化への取組	4.0	A					58	佐々子応援団あいさつ運動参加者数	50人程度	70人	58	82.9%	A	後期計画	
	② 地域教育を担う人材の育成	109	地域の担い手の発掘と育成への取組	4.0	A					59	学校支援ボランティアの実人数	96人	100人	94	94.0%	A	実態調査	
		③ 青少年健全育成活動の支援	110	佐々子ゆめプランの啓発の支援	4.0	A	佐々子ゆめプランの啓発	学校等	4.0	A	60	佐々子応援団あいさつ運動参加者数	50人程度	70人	58	82.9%	A	後期計画
			111	佐々子応援団活性化への取組	4.0	A												

大項目	中項目	活動指標				成果指標			
		評価	教育委員会項総合評価(活動指標)	学校等項総合評価(活動指標)	項総合評価(成果指標)				
6 学校・家庭・地域の連携の推進	所見	達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 190.9%	総合評価: A		
	所見(佐々小)	昨年度に引き続き、校長が登校時校区内安全指導を毎日実施している。さらに、年度末にあいさつ運動に参加されている方々を学校に招き、感謝の集会を開催した。このような取組から、あいさつ運動に参加されている方々と学校のつながりが一段と深まり、児童や参加者にとって、心温まるあいさつ運動になりつつある。また、各地域の生活部の取組として、定期的な立哨当番があり、子ども達を温かく見守る機運が高まっている。あいさつ運動参加者人数はまだ不十分であるが、量より質を高めたつながりを深めるあいさつ運動として定着させていきたい。							
	所見(口石小)	2月に児童の安全・安心及び学習を支えていただいている方々をお招きし、感謝集会を開催した。地域の多くの方々にご出席いただき、感謝の気持ちを伝える和やかな会となった。今後も地域の教育力を活用させていただき、児童の健やかな成長を促していく。							
	所見(佐々中)	佐々子ゆめプランについてアンケートを行い、集計分析を行っている。中学生も多くの地域の方々に朝の登校等を見守っていただいている。職場体験では、地域の事業所にお世話になっている。伝統継承式では、佐々中学校出身の方々に講話をいただき、子どもたちのキャリア教育につなげた。							
	所見(委員会)	コミュニティスクールが各学校に定着するとともに「さざ子応援団」活動も、社会教育分野から地域住民の協力による学校支援活動へと円滑に移行してきた。「佐々子土曜学習プログラム」も3年目になり、町内社会教育団体等へ委託した。3つの学習プログラムが円滑に実施できている。放課後子ども教室について、「さざ子ワクワクまなびタイム」を3回開催し、子どもの体験学習の機会の提供に努めた。							

大項目	中項目	活動指標						成果指標									
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
7 生涯学習・社会教育の推進	① 生涯学習機会や内容の充実と支援	112	各種講座の充実への支援	4.0	A	各種講座の充実	公民館	4.0	A	61	各種講座参加者数(年間)	481人(H26)	700人	771.0	110.1%	A	後期計画
		113	公民館学習グループ等の自主学習グループの育成	4.0	A	公民館学習グループ等の自主学習グループの育成	公民館	4.0	A	62	公民館活動参加者数	365人	450人	466.0	103.6%	A	後期計画
										63	講座参加者の満足度	データなし	70%以上	97.0	138.6%	A	後期計画
	② 読書機会の充実	114	図書館機能充実のための支援・指導	4.0	A	書籍の整理と選書の充実	図書館	4.0	A	64	町民一人当たりの貸出冊数	13.3冊(H25)	現状以上	10.0	75.2%	B	後期計画
		115				「読み聞かせ」の実施	図書館	4.0	A	65	読み聞かせへの参加世帯数(土・日の参加)	15世帯程度	現状以上	9.0	60.0%	C	後期計画
	③ 人権教育の推進	116	人権に関する講座の開催	4.0	A	人権に関する講座の開催	公民館	3.0	B	66	人権に関する講座の開催数	1回	1回以上	2	200.0%	C	実態調査
	④ 大学などと連携した学習機会の充実	117	県立大学と連携した学習機会の充実	4.0	A	県立大学と連携した講座や活動の実施	公民館	3.0	B	67	県立大学と連携した講座や活動の実施数	4回	4回	4	100.0%	A	実態調査

7 生涯学習・社会教育の推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 3.7	総合評価: A	評価平均: 97.9%	総合評価: A
所見		成果指標の目標値は、ほぼ達成できた。今後、さらに講座内容を充実し、新たな利用者を増やしたい。					
所見(公民館)		選書及び特設コーナーを充実させ、貸出冊数増を図る。また、参加者増のため、啓発方法等を見直し、多くの方々への周知徹底を図る。					
所見(図書館)		各種社会教育講座及び公民館講座において参加者に開催希望内容等を聴くことによって興味・関心に応じた講座等を設定できた。学校・家庭・地域・行政が連携した子どもの読書活動を推進するために、「佐々町子ども読書活動推進計画」を策定した。図書館の活動状況を分かりやすくまとめた。「佐々町立図書館要覧」も作成した。目標値を実態に応じて改訂することによって、それぞれの活動の実態を評価できるようになった。					

大項目	中項目	活動指標						成果指標									
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
8 生涯スポーツの推進	① 社会体育団体の活動の育成・支援	118	社会体育団体の育成・支援	4.0	A	活動の活性化	スポーツ団体	4.0	A	68	スポーツ少年団各部への登録者数及びクラブ数	254人	現状以上	237	93.3%	A	後期計画
		119	登録者数及びクラブ数増加のための取組	4.0	A	登録者数増加のための取組	スポーツ団体	4.0	A			14部	現状以上	14	100.0%	A	
	② 子どもから大人まで楽しめるスポーツイベントの推進	120	スポーツイベントの開催	4.0	A	スポーツイベントの開催	スポーツ団体	4.0	A	69	スポーツイベントへの参加者数	約2,000人	2,000人	2,607	130.4%	A	後期計画
		121				スポーツイベントの運営	スポーツ団体	4.0	A	70	体育協会各部への登録者数及びクラブ数	365人	現状以上	299	81.9%	A	後期計画
	③ スポーツ指導者の育成	122	スポーツ指導者の育成・確保	4.0	A	スポーツ指導者の育成・確保	スポーツ団体	4.0	A			16部	現状以上	13	81.3%	A	後期計画
	④ 体育施設の有効活用	123	体育施設の利用促進	4.0	A	体育施設の積極的な活用	スポーツ団体	4.0	A	71	社会体育施設の利用者数	117,000人	現状を維持	116,769	99.8%	A	実態調査
		124	体育施設の適切な維持・管理	4.0	A					72	維持管理、運営手法の検討	未検討	改善	検討実施	-	-	-

8 生涯スポーツの推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 97.8%	総合評価: A
所見		スポーツ少年団、体育協会ともに目標値を下回っている。今後はホームページや周知活動などにより増加を図っていく。					
所見(スポーツ関係団体)		スポーツ少年団員、体育協会員ともに多少の増減はあるものの横ばいの状況にある。体育施設の利用者数も11万人前後と横ばいの傾向にある。画期的な改善策は難しいと思われるが、各種スポーツ団体と連携して生涯スポーツの推進に取り組んでいきたい。					

大項目	中項目	活動指標						成果指標										
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査	
9 芸術・文化を守り、育てる活動の推進	① 自主文化事業の開催	125	自主文化事業の開催	4.0	A					73	文化にかかわる発表会への参加者数	2,700人	3,000人	2,779	92.6%	A	実態調査	
	② 学校教育における郷土教育の推進	126	「佐々町博士」の編集・改訂	4.0	A	「佐々町博士」の活用	学校等	4	A	74	「佐々町博士」(歴史分野)の活用度	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	
	③ 社会教育講座と公民館講座との連携	127	郷土史学習の推進	4.0	A	郷土史学習の実施	公民館	1	D	75	社会教育講座、公民館講座における郷土学習の開催回数	5回	現状以上	1	20.0%	D	実態調査	
	④ 文化遺産・歴史遺産の保存と活用	128	文化財の適切な保存・保護	4.0	A					76	旧郷土資料館収蔵物の適切な保存	価値評価実施	適切な保存	検討委開催	-	-	-	-
		129	文化遺産・歴史遺産についての広報	4.0	A					77	町指定文化財数	11件	13件	11	84.6%	A	後期計画	
										78	佐々歴史リーフレットの改訂	-	完成・配布	未実施	-	-	-	-

9 芸術・文化を守り、育てる活動の推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 2.5	総合評価: C	評価平均: 74.3%	総合評価: B
所見		平成29年度から、新しい佐々町博士を活用して郷土学習に取り組んでいる。児童にとって、わかりやすい内容で、効果的な学習を展開している。特に、児童の興味・関心を高める場面においては有効である。「佐々町博士」を窓口にも、郷土教育をさらに広げ、郷土を愛する佐々の子どもたちを育成していきたい。また、本年度寄贈していただいた「モコちゃんの佐々川ぼうけん」を活用して小学校低学年の郷土学習の充実を図りたい。					
所見(学校)		(委員会)旧佐々町郷土資料館収蔵品の保存方法については、収蔵品保存方法を検討した。次年度は、整理基準に沿って収蔵品の整理や具体的な展示方法を検討したい。					
所見(委員会・公民館)		(公民館)今年度は特別講座として、運動習慣を身につける「ウォーキング講座」を実施したため、成果指標は達成できなかった。来年度は郷土史学習を企画し、実施したい。					

大項目	中項目	活動指標						成果指標									
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	評価の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査
10 新たな地域文化創造の推進	① 町民主体の文化芸術活動への支援	130	芸術・文化活動への支援	4.0	A					79	文化にかかわる発表会への参加者数	2,700人	3,000人	3,746	124.9%	A	実態調査
	② 子どもたちが芸術文化にふれあう機会の提供	131	子どもたちが芸術文化にふれあう機会の提供	4.0	A	子どもたちが芸術文化にふれあう機会の設定	学校等	4.0	A	80	子どもたちが芸術文化にふれあう機会の提供数	2回	2回以上	2	100.0%	C	実態調査
	③ 施設の有効利用と管理運営	132	施設利用の促進	4.0	A					81	文化会館年間利用者数	29,500人(H26)	現状以上	25,459	86.3%	A	後期計画
		133	施設の適切な維持管理、運営方法の検討	4.0	A					82	維持管理、運営方法の検討	未検討	改善	未検討	-	-	-
	④ 地域交流センターの利用促進	134	地域交流センターの利用促進	4.0	A					83	地域交流センターの利用者数	データなし	35,000人	20,252	57.9%	D	総合戦略

10 新たな地域文化創造の推進	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 89.7%	総合評価: A
所見		(佐々小)昨年度に引き続き、全校音楽を定期的に取り入れ、合唱に対する児童の意識が変容している。来校者へのお礼等、適宜全校合唱を披露し、合唱の喜びや芸術に対する親しみを感じさせている。さらに、例年、清峰高校吹奏楽部演奏・コーラス部合唱、佐々町音頭、おくんち参加等、多種多様な芸術・文化と接する機会を設け、情操教育の充実を図った。また今年度は、文化芸術による子供の育成総合事業が決定しており、巡回公演を計画している。(口石小)11月の学習公開日には、午前各学年による学習発表や音楽発表を行った。午後は、県立佐世保東翔高等学校吹奏楽部を招いて、音楽鑑賞を行った。本物の芸術に触れる機会として、児童も高い関心を持って鑑賞した。当日は、保護者や地域の方々の参観も多く、地域ぐるみでのイベントとなった。(佐々中)青少年劇場を通して、古典芸能の鑑賞を行った。優れた舞台芸術を鑑賞することにより、豊かな心を養う貴重な体験になった。					
所見(学校)							
所見(委員会)		町内小・中学校や文化協会等の各種団体と連携し、町民文化祭や青少年音楽祭を開催した。地域交流センターについては、目標値を達成できなかったが前年度に比べると利用者が2000人程度増加した。次年度以降も、利用者の拡大を図ってきたい。					

平成30年度 佐々町教育委員会自己点検・評価シート

番号	項目	評価	所見
1	教育行政の運営に関する一般方針を決定すること。	A	「学校の危機管理マニュアルの指針」を策定した。「佐々町登下校安全プラン」を策定した。「佐々町の運動部活動に係る活動方針」を策定した。「佐々町子ども読書活動推進計画」を策定した。
2	学校その他の教育機関の設置及び廃止を決定すること。		該当事案はなかった。
3	法令に基く認可に関すること。		該当事案はなかった。
4	教育財産の取得及び処分について、町長へ申し出を行うこと。		該当事案はなかった。
5	教育予算、その他議会の議決を経るべき事件の議案の作成について、意見を申し出ること。	A	空調施設等の教育環境整備に係る予算や町立幼稚園の解体に係る予算について申し出た。
6	教育委員会の規則の制定又は改廃を行うこと。	A	「佐々町子どものための教育・保育給付に関する条例施行規則の一部改正」「佐々町町内会公民館建築費助成金交付規則の一部改正」「佐々町立図書館管理運営規則の一部改正」「佐々町立小・中学校管理規則の一部改正」「佐々町教育委員会事務局組織規則の一部改正」「佐々町学校運営協議会規則の一部改正」について審議し承認した。
7	教科用図書の採択に関する基本方針を定めること。	A	県北地区教科書採択協議会において、教科用図書の採択に関する基本方針を定め、小学校教科書及び中学校教科書(道徳科以外)の採択を行った。
8	学校その他の教育機関の施設及び整備計画の大綱を定めること。	A	佐々町学校給食施設整備検討委員会に学校給食施設建設基本方針の策定について諮問した。
9	教育長、教育委員会の事務局職員及び教育委員会の所管に属する学校以外の教育機関の職員の人事に関すること。	A	教育委員会の所管に属する機関の人事について承認した。
10	校長、教員その他の教育関係職員の人事に関すること。	A	2月の臨時教育委員会で、教職員の人事について承認した。
11	学校の通学区の設定及び変更を行うこと。		該当事案はなかった。
12	法令及び条例に基く委員の委嘱及び解嘱を行うこと。		該当事案はなかった。
13	校長、教員その他の教育関係職員の研修計画の大綱を定めること。	A	町独自の研修計画は定めていないが、校長・教員については、毎月1回の定例研修会を開催している。その他、教務主任、研究主任、生活指導主任・生徒指導主事、養護教諭、特別支援教育担当者の研修会をそれぞれ3回実施した。また、来年度からの町雇用の支援員も含めた研修会の実施を企画した。
14	校長、教員その他の教育関係職員並びに生徒児童の保健、安全、厚生及び福利に関する基本方針を定めること。	A	「佐々町の運動部活動に係る活動方針」を策定し運動部活動における適切な休養を通知した。「佐々町登下校安全プラン」を策定し通学路の緊急安全点検を実施した。
15	学校給食の企画及び指導方針を定めること。	A	佐々町学校給食施設整備検討委員会に学校給食施設建設基本方針の策定について諮問した。(再掲)
16	文化財の指定に関すること。	A	新たな文化財指定は行わなかった。佐世保古文書解説研究会に委託し、吉永家文書「毎年記録」を翻刻した。あわせて書下し文、現代文を作成・製本した。